

尚、通年下記行事を実施しております。是非御参加下さい。

◇定例法話◇



毎月一度お寺に集まり、聞法を深めるとともに、お仲間と命の尊さを確認し、語り合えるご縁をいただきましょう。

どなたでも自由参加ですので、どうぞお気軽にお越し下さい。

○日時 毎月25日 午前10時半より 午後1時半より

◇婦人同朋会◇



正信偈を中心としたお勤めからはじまる聞法会です。勤行稽古、報恩講への参加を御縁とした交流の場でもあります。

尚、正信偈の意識を通して宗祖親鸞聖人の教えを深めていきます。まだ始まったばかりですので、皆様の御参加を願っております。

○日時 午後1時半より 10月18日 (午前10時よりおみがき)

1月24日 (互礼会) 3月27日

◇俳句会◇

毎月 第1日曜日及び7日



《一口法話》



古いCDの中から懐かしいアルバムを探し出し、今聴いています。不思議なもので、曲が流れ始めるとメロディーに乗って少年の頃の想いが甦ってきました。それは思い出といったような形あるものではなく、心情というか感情というか…

おそらくその曲が直接、心に響き、その頃の心そのものがそこに映し出されたのでしょう。まるで少年の頃の自分に出会ったようでした。

お経を聴いたりお念仏を称えるとほっとする、心休まるという人がいます。それは単に耳で聞いているのではなく、心に届き、心に響く、まさにお経や称えられたお念仏が“働き”として直接、心に響いた瞬間なのです。

そこに映し出されるものは、私自身。何も飾り立てないありのままの自分に出会う事ができるのです。何も作ろうことなく力むこともない、だから心休まるのです。

私達は常に大人の顔を作って、心を隠し、疲れ果ててはいませんか？ 時には少年の頃の自分に戻って心をリラックスさせれば、そこに響いてくるものがあるのでは。

《後記》



記録的な暑さも彼岸近くなり、漸くの涼風にほっと致します。



今年中秋の名月がお彼岸六日目になります。過去に中日と名月が重なり、墓堂を開けたままお月見をしたこともありました。古人は月に名をつけ折々の月を賞でたそうです。14日(小望月)、15日(望月)、16日(既望)、17日(立待)、18日(居待)、19日(臥待)、20日(更待)等々。名月を待ち暮らした思いが込められています。ロケットが打ち上げられる昨今ですが、宇宙旅行は夢のまた夢、知られない良さというのもありましょう。墓参りの後、故人を偲びながらのお月見はいかがでしょう。〔前坊守〕 - 2 -